

たけもと とも か
有限会社珈琲倶楽部 専務取締役 竹本 輪加 氏

地域で愛されてきた珈琲店を承継。 新たなチャレンジで事業拡大へ



PROFILE

札幌市出身。医療関係に従事していたが、転職を機に新潟に移住。その後、建設業やマッサージのフランチャイズ事業など、さまざまな職業を経験。高齢を理由に後継者を探していた先代オーナーから見込まれ、珈琲倶楽部の事業を引き継ぐ。令和2年4月に事業譲渡が成立し、専務に就任。

新潟県内を中心に直営店4店舗、フランチャイズ店18店舗を展開する珈琲倶楽部は、地域の人に愛されているコーヒー店。4年前に先代から事業を引き継ぎ、自家焙煎コーヒーの味を大切にしながら新たな付加価値で事業拡大を目指す竹本専務にお話を伺いました。



有限会社珈琲倶楽部

〒950-0972

新潟市中央区新和1丁目10番9号

TEL : 025-283-4578

<https://www.coffeeclub.jp>

商工会議所さんはいろいろな情報を提供してくれて、伴走もしてくれる。開業したい人への支援も多いので、もっとみなさんに活用してほしいです



店内には世界各国から仕入れた生のコーヒー豆がズラリと並び、注文を受けてから、その場で焙煎してくれるのが特徴だ。

先代オーナーの意向を受けて 事業承継を決意

珈琲倶楽部は大手コーヒーメーカーに勤めていた先代オーナーが、退職後に創業した後、自身が開発した小型焙煎機の貸し出しと経営ノウハウを提供することでフランチャイズ（FC）店を増やし、事業を拡大してきた。令和2年、以前からリラクゼーション事業を手掛けていた竹本さんが、その事業を承継した。「当初はマッサージ部門とともに珈琲倶楽部のFC店を開業したいと思い、オーナーから豆の焙煎などを教えてもらっていました。そのうちに“自分は高齢なので辞めるから、あなたに全て任せたい”と言われ、事業を引き継ぐことにしたのです」と竹本さんは語る。

商工会議所に事業計画から相談。 開業希望者のフォローアップに利用

こうして事業の譲渡に向けて動き出すが、当初は資金繰りがうまく進まなかった。「そんなときに力になってくれたのが、地元の金融機関さんと新潟商工会議所さんでした」と話すように、商工会議所からは事業計画や中長期の資金繰り計画の策定、契約書関係についてアドバイスを受けた。「担当者がとてもいい資料を作成してくれて、無事銀行の審査も通りました」。さらに譲渡後は、FC店の開業希望者にも商工会議所への相談を勧めている。「まず事業計画書の作成や、設備投資に必要な補助金申請の支援を受けてもらうようにしています。商工会議所に入会すれば、開業後も伴走してもらえるので安心だと思います」。

柔軟な店舗形態による相乗効果も。 FC店の増加とECサイト充実へ

FC店は本社から小型焙煎機のリースと生豆を購入すれば、店舗の形態は自由。例えばリラクゼーションサロンと併設した店舗では、マッサージに来たお客様がコーヒー豆を購入したり、逆にコーヒーが目的だった人がマッサージに興味を持ったりするなど、相乗効果もかなりあるという。「フードメニューも各店舗で自由です。本店のメニューで希望があればレシピも教えますし、生豆の原価が高くなってもFC店には何とか安く卸しているのです、オーナーさんも経営しやすいと思います」。

今年秋には商工会議所が支援する、香港そごうでの「新潟県産フェア」に出店予定。さらに新潟三越伊勢丹「越品」にギフト用品が採用されるなど、販路開拓を着実に進める同社。「今後は県内外でFC店を年間2店舗ずつ増やしていきながら、ECサイトを充実させて利益を上げていきたい。そのためにも会社のブランド化を図り、ECサイトへの集客に繋げていければと考えています」。新しいチャレンジを次々と形にし、仲間を増やしながら珈琲倶楽部の新たなファン層を広げていく。



本店ではコーヒーはもちろん、モーニングやランチなどのフードメニューも好評。毎日通うお客様もいるという。

2021年、2023年の「フードメッセ in にいがた」に商工会議所ブースで出展（この写真は2023）。2021年出展の際には、県内外から6件の商談があった。

